

3級認定講習会 競技規則テスト例題② (2022/2023)

◆第12条「ファウルと不正行為」について、()に適語を入れなさい。

▷直接フリーキック

競技者が次の反則のいずれかを相手競技者に対して不用意に、無謀に、または過剰な力で犯したと主審が判断した場合、直接フリーキックが与えられる。

- ・ (1) 。
- ・ (2) 。
- ・ (3) 。
- ・ (4) 。
- ・ (5) (6) を含む。
- ・ (7) 、または (8) する。
- ・ (9) 。
- ・ 不用意とは、競技者が相手にチャレンジするときに (10) や (11) が欠けていると判断される、または (12) を欠いて行動すること。懲戒の罰則は、必要ない。
- ・ 無謀とは、競技者が相手競技者にとって (13) になる、または (14) そうなることを (15) して行動することで、警告されなければならない。

過剰な力を用いるとは、競技者が (16) を用いる、または相手競技者の (17) を (18) ことで、退場が命じられなければならない。

競技者が次の反則のいずれかを犯した場合、直接フリーキックが与えられる。

- ・ (19)
(自分のペナルティーエリア内でゴールキーパーが触れた場合を除く) 。
- ・ (20) 。
- ・ (21) 。

・チームリストに記載されている者もしくは審判員を（ 22 ） 、またはこれらに向かって（ 23 ） 。

・ボール、相手競技者もしくは審判員に対して（ 24 ） 、または（ 25 ） でボールに触れる。

▷ボールを手や腕で扱う

ハンドの反則を判定するにあたり、腕の上限は、（ 26 ） の位置までのところとする。競技者の手や腕にボールが触れることのすべてが、（ 27 ） 。

競技者が次のことを行った場合、反則となる。

・例えば手や腕をボールの（ 28 ） に動かし、手や腕で（ 29 ） にボールに触れる。

・手や腕で体を（ 30 ） して手や腕でボールに触れる。手や腕の位置が、その（ 31 ） における競技者の体の動きによるものではなく、また、競技者の体の動きから（ 32 ） ではないと判断された場合、競技者は、不自然に体を大きくしたとみなされる。競技者の手や腕がそのような位置にあったならば、手や腕にボールが当たりハンドの反則で罰せられるリスクがある。

・相手チームのゴールに次のように得点する。

・（ 33 ） であっても、ゴールキーパーを含め（ 34 ） の手や腕から（ 35 ） 。

・（ 33 ） であっても、ボールが（ 34 ） の手や腕に（ 36 ） に。

▷得点または決定的な得点機会の阻止で考慮する状況を答えよ。

・（ 37 ） と（ 38 ） との（ 39 ）

・（ 40 ） な（ 41 ） の（ 42 ）

・ボールを（ 43 ） できる、または（ 44 ） できる（ 45 ）

・（ 46 ） の（ 47 ） と（ 48 ）